PART3 現代の思想

Chapter1　近代的理性の批判

目標　近代的理性を批判し，現実の自己存在を重視した思想について知ろう。
ドイツのフランクフルト学派の思想家たちが恐れている状態は何か，考えよう。

1　実存主義

現実の存在＝今ここにいる私自身が「　　　　」。近代哲学が重視してきた「**理性**」への疑いを背景に，個々の意識を変革することによって（発達した資本主義下の市民社会における）人間性を取り戻そうとする思想を**実存主義**という。

①デンマークの**キルケゴール→**有神論的実存主義の先駆「(**絶望**は）死に至る病」
「**実存の三段階**（美的・倫理的・宗教的実存)」による主体的真理の追究
※自己を見失い絶望する人間は，信仰への決断によって本来の自己を回復し，
〔　　　　　　〕として神の前に立つ。

②ドイツの〔　　　　　　　　〕**→**無神論的実存主義の先駆「**神は死んだ**」
キリスト教の奴隷道徳が**ニヒリズム**〔虚無主義〕を生んだと批判

③ドイツの**ヤスパース→**有神論的実存主義「**実存的交わり**＝愛しながらの戦い」
〔　　　　　　　　〕への直面時に**超越者〔包括者〕**に出会い実存に目覚める

④ドイツの〔　　　　　　　　　　　　〕**→**無神論的実存主義のち「存在の牧人」
「**ひと〔世人・ダス＝マン〕**」ではなく「**現存在〔ダーザイン〕**」として生きる

⑤フランスの〔　　　　　　　　〕**→**無神論的実存主義「**実存は本質に先立つ**」
「**人間は自由の刑に処せられている**」が**アンガージュマン**〔社会参加〕すべき

⑥フランスの**ボーヴォワール→**「**人は女に生まれるのではない，女になるのだ**」
セックス〔生物学的性差〕と**ジェンダー〔社会・文化的性差〕**を明確に区別
※サルトルとの契約結婚関係で有名。

サルトル（左）とボーヴォワール

2 フランクフルト学派

なぜ「理性」が発達したはずの社会に，ヒトラーのナチズムのような「野蛮」な全体主義が発生したのか，という問題意識を持ち，実存主義とは別の視点から近代的理性を批判。

※メンバーの多くがユダヤ系で，迫害を逃れドイツからアメリカに亡命して活躍。

①**ホルクハイマー**と**アドルノ→道具的理性**を批判

②フロム→精神分析学を導入して「自由からの逃走」を考察

③**ハーバーマス→**「第２世代」として**対話的理性〔コミュニケーション的理性〕**に注目

支配関係がなく自由に**討議**し**合意**を形成できる〔　　　　〕**空間**の必要性を主張

※政治・経済制度が日常生活を支配する「**生活世界の植民地化**」が進んでいるが，「**討議デモクラシー**〔熟議民主主義〕」の可能性を信じて対話を続けることを主張。

④**ハンナ＝アーレント→**〔　　　　〕主義が生まれるメカニズムの解明を試みた女性学者

人々が対等な立場で意見を言い合える〔　　　　〕**空間**の必要性を主張

※人間の行為を，生活に必要な**労働**，物や作品を作る**仕事**，公共性の領域である〔　　　　〕に分けた。

ハンナ＝アーレント

3 その他の思想

実存主義やフランクフルト学派とは別の視点から近代的理性を批判。これらの思想は，社会主義思想とは違い，社会の変革（＝革命）は目指さないものが多い。

①**分析哲学→**イギリスの**ウィトゲンシュタイン**（出身はオーストリア）

哲学のテーマを日常世界に下ろして抽象的「セカイ」ではなく現実的「世界」で考察

②**構造主義→**フランスの**レヴィ＝ストロース**ら

社会制度や文化の背景には一貫した無意識の規則である「**構造**〔システム〕」がある

※人間社会には「進歩」などなく，同じ構造の下で「〔　　　　〕」が行われるだけと指摘。

③その他の思想

A 「知の考古学」を提唱し近代の成立過程を批判したフランスの〔　　　　　　　　〕

B 「汝殺すなかれ」と**倫理的主体**となることを説いたフランスの**レヴィナス**

まとめ

「理性」よりも自分自身である「実存」を重視した思想が実存主義。

フランクフルト学派の思想家たちは，全体主義の状態を批判し恐れた。

Chapter2　公平と正義・公正

目標　公共空間で公平さや正義を問われる状況について，考えてみよう。
日本における公平と，その問題点を知ろう。

1　ロールズのリベラリズム〔自由主義〕

アメリカのハーバード大学の政治哲学者〔　　　　　　　　〕（1921 ～ 2002 年）は，格差や不平等を社会の不正義と考え，その理由を各個人がそれぞれの立場に縛られているからだと考えた。そして，著書『〔　　　　　　〕』の中で，自由・機会・富などの**基本財を分配**する正義の原理を探究した。

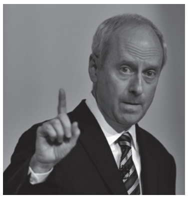
※個人･社会の自由を最重視しつつ平等にも配慮する**リベラリズム〔自由主義〕**の代弁者（「大きな政府」の民主党寄りの立場）。また，同じハーバード大学の哲学者ノージック（1938 ～ 2002 年）は，他者の権利を侵害しない限り自由を最大限に尊重する**リバタリアニズム〔自由至上主義〕**の代弁者（「小さな政府」の保守党寄りの立場）。

①「**無知のヴェール**」という**原初状態**による思考実験→自分の置かれた状況が分からない
　自らが恵まれた状況にも不幸な状況にもなる可能性があれば公正性と平等性を求める傾向
　※個人が自らの立ち位置に縛られないことで，平等な社会の実現は可能とした。

②正しい分配である「〔　　　　〕**としての正義**」を実現するために→**正義の二原理**
　A　第一原理→**平等な自由の原理**
　　人はみな自由で平等な権利を持つが他者の権利を侵してはならない
　B　第二原理→**公正な機会均等の原理と格差原理**
　　あ　社会の格差は平等な機会の下での公正な競争の結果でなければならない
　　い　社会の格差は（競争の結果生まれた）最も恵まれない人々の生活改善につながる限りで認められる
　　↓↓↓
　公正な競争の結果としての社会格差は容認するが，（競争の結果）新たに発生した最も不遇な人々に手を差し伸べないなら，その格差は是正されなければならない。

③功利主義を批判→幸福の〔　　　　〕について考えていないと批判
　個人の快楽を求める行動がそのまま社会全体の幸福につながるとは考えない
　※「社会は人々の（暗黙の）合意に基づき成り立つべきである」とする社会契約説の復権を唱えた。

2　マイケル＝サンデルのコミュニタリアニズム〔共同体主義〕


マイケル＝サンデル

ハーバード大学の政治哲学者**マイケル＝サンデル**(1953年～)は，ロールズを批判した。

※個人を共同体との関係で捉え，伝統の中で育まれた価値観を重視する**コミュニタリアニズム〔共同体主義〕**の代弁者。個人の善ではなく，共同体全体の**共通善〔公共善〕**を目指す。

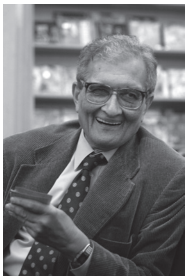
①ロールズの正義論は共通善の追求という目的を欠き個人的権利の保障を優先させている
これでは社会はまとまりを欠き政府も方向性を打ち出せず行き詰まる

②ロールズの人間観にはコミュニティ〔共同体〕への属性がない
所属するコミュニティを考慮しない議論は現実と乖離する

↓↓↓

各個人は，**所属する公共的な空間の中**で，具体的な他者との間で対話することによって，正義を継承しつつ培っていくべきである。

3　センの自由主義→ケイパビリティ＝アプローチ


アマルティア＝セン

〔　　　　　〕出身の**アマルティア＝**〔　　　　〕（1933年～）は，開発と貧困の問題を専門に扱う厚生経済学者。

※ 1998年, **アジア人として初めてノーベル**〔　　　　　〕**賞を受賞**。

①〔　　　　　　　〕**〔ケイパビリティ〕**→等しく保障すれば社会全体の幸福に
「自分にとって価値があると思う諸目的」を追求する自由→**機能**の総体
※財の分配で「結果の平等」に近づくより，それぞれに合った「機会の均等」を重視。

②**潜在能力アプローチ〔ケイパビリティ＝アプローチ〕**
潜在能力の機能がどれだけ発揮できているかで格差是正を評価
※貧困などの格差問題は，単に所得を向上させることでは解決できないと考え，ロールズの唱える分配の正義を批判。この考えを発展させたのが，国際連合の「**人間開発指数**」。

まとめ　公共的な空間では，他者との関係において公平さや正義が問われる。
日本では「機会の均等」を重視されているが，その格差は広がっている。

第３講　PART3　確認問題

1　「実存の三段階」を提唱し，有神論的実存主義の先駆者となった人物はだれか。

①　キルケゴール　②　ハイデッガー
③　サルトル　④　ニーチェ

2　ニーチェが述べた言葉はどれか。

①　「神は死んだ」　②　「人は女に生まれるのではない」
③　「（絶望は）死に至る病」　④　「実存は本質に先立つ」

3　ヤスパースが主張した，限界状況への直面時に出会う，人間を超え包み込む存在のことを何というか。

①　ダス＝マン　②　単独者
③　超人　④　超越者〔包括者〕

4　ハイデッガーに関連するものは何か。

①　ニヒリズム　②　現存在〔ダーザイン〕
③　アンガージュマン　④　実存的交わり

5　フランクフルト学派の「第２世代」として対話的理性〔コミュニケーション的理性〕に注目した人物はだれか。

①　フロム　②　ハーバーマス
③　ハンナ＝アーレント　④　アドルノ

6 ハンナ＝アーレントに関連するものはどれか。

① 生活世界の植民地化　② 自由からの逃走
③ 公共空間　④ 道具的理性

7 構造主義に立つ人物はだれか。

① ハーバーマス　② ウィトゲンシュタイン
③ レヴィナス　④ レヴィ＝ストロース

8 「知の考古学」を提唱した人物はだれか。

① ハーバーマス　② フロム
③ レヴィナス　④ フーコー

9 「公正としての正義」を実現するために，正義の二原理を説いた人物はだれか。

① ロールズ　② アマルティア＝セン
③ サルトル　④ マイケル＝サンデル

10 アマルティア＝センと関連するものは何か。

① リバタリアニズム　② ケイパビリティ＝アプローチ
③ コミュニタリアニズム　④ 討議デモクラシー

第 3 講　PART3　確認問題　解答

1 解答：①　キルケゴールは，「実存の三段階（美的・倫理的・宗教的実存）」を提唱し，主体的真理を追究した。

②：無神論的実存主義者。
③：無神論的実存主義者。
④：無神論的実存主義の先駆者。

2 解答：①　ニーチェは，キリスト教を基礎とする伝統的価値が，もはや生命を失っているとして「神は死んだ」と述べた。

②：ボーヴォワールが述べた言葉。
③：キルケゴールが述べた言葉。
④：サルトルが述べた言葉。

3 解答：④　ヤスパースは，超越者〔包括者〕に出会うことによって人は実存に目覚めるとした。

①：平均的・画一的な生き方に陥っているひと〔世人〕のことで，ハイデッガーが主張した。
②：信仰への決断によって本来の自己を回復し，神の前に立つ人間のことで，キルケゴールが主張した。
③：力への意志に基づいて価値を創造し続ける人間のことで，ニーチェが主張した。

4 **解答：②**

ハイデッガーは，現代人は「ひと〔世人・ダス＝マン〕」ではなく「現存在〔ダーザイン〕」として生きるべきであるとした。

①：虚無主義のことで，ニーチェが主張した。
③：社会参加のことで，サルトルが主張した。
④：「愛しながらの戦い」のことで，ヤスパースが主張した。

5 **解答：②**

対話的理性とは，個人の利害のためにある道具的理性に対して，日常生活の中で人々が理にかなったコミュニケーションを行うための理性のこと。

①：精神分析学を導入し，「自由からの逃走」を考察した。
③：全体主義が生まれるメカニズムの解明を試みた。
④：ホルクハイマーとともに道具的理性を批判した。

6 **解答：③**

ハンナ＝アーレントは，人々が対等な立場で意見を言い合える公共空間の必要性を主張した。

①：ハーバーマスに関連する。
②：フロムに関連する。
④：ホルクハイマーとアドルノに関連する。

7 **解答：④**

レヴィ＝ストロースは，人間社会には「進歩」などなく，同じ構造の下で「変換」が行われているだけだと指摘した。

①：対話的理性に注目し，公共空間の必要性を主張した。
②：哲学のテーマを日常世界に下ろして，抽象的「セカイ」ではなく現実的「世界」で考察した。
③：「汝殺すなかれ」と倫理的主体となることを説いた。

8 解答：④

「知の考古学」とは，近代人の思考の枠組みとなった知の体系の成立過程を研究する学問である。

①：対話的理性〔コミュニケーション的合理性〕に注目した。
②：精神分析学を導入した。
③：「汝殺すなかれ」と倫理的主体となることを説いた。

9 解答：①

第一原理は平等な自由の原理で，第二原理は公正な機会均等の原理と格差原理からなる。

②：開発と貧困の問題を専門に扱う。
③：無神論的実存主義を主張した。
④：ロールズを批判し，個人の善ではなく，共同体全体の共通善〔公共善〕を目指す。

10 解答：②

ケイパビリティ＝アプローチは潜在能力アプローチとも呼ばれ，潜在能力の機能がどれだけ発揮できているかで格差是正を評価するもの。

①：自由至上主義のことで，ノージックが主張した。
③：共同体主義のことで，マイケル＝サンデルが主張した。
④：熟議民主主義のことで，フランクフルト学派のハーバーマスが主張した。